

「相互尊重のある多角的なアグリビジネスを目指して」



渡部 武士 (42歳) 新規参入
(宇和島市)

1 就農の動機・理由

就農前に地域おこし協力隊として「柑橘産地に係る地域活性化」をテーマに、地域の農家の下でアグリレスキューを行う一方、地域発信を目的にジュースの製造販売事業を展開した。国・大学講師や講演活動を行いながら、単にジュース販売だけでなく自らの手でストーリー性を重視した商品を目指し、柑橘の生産から販売まで一貫して取り組む意思から就農を決意した。

○農業用施設

農業用倉庫 1棟
単軌条運搬機 2台

○主要農業機械

軽トラック 1台
選果機 1台
動力噴霧器 1台
刈払機 1台
背負い式動力噴霧器 1台

2 農業経営の概要

○経営の展開

項目	就農時の経営 (令和2年)	現在の経営 (令和3年)	将来の経営 (令和6年)
労働力	男1人(本人) パート5人	男1人(本人) パート5人	男1人(本人) パート5人
経営耕地	樹園地 101a	樹園地 101a	樹園地 150a
経営内容	極早生温州 20a	極早生温州 20a	極早生温州 20a
	早生温州 20a	早生温州 20a	早生温州 30a
	南柑 20号 10a	南柑 20号 10a	南柑 20号 20a
	愛媛果試第28号 5a	愛媛果試第28号 5a	愛媛果試第28号 5a
	ボンカン 3a	ボンカン 3a	ボンカン 17a
	不知火 15a	不知火 15a	不知火 25a
	甘夏 15a	甘夏 15a	甘夏 15a
	栗 13a	栗 13a	レモン 12a ライム 6a

3 あしあと

(1) 就農までの主な経歴

出身地 神奈川県鎌倉市
職歴 外資系ホテル勤務
証券会社勤務
飲食企業経営
就農年月 令和2年7月

(2) 就農時の思い

飲食店経営やホテルマン時代の経験と柑橘ジュースの製造販売を通じて培った視野を活かし、10年目標で生産物や加工品など多角的なアグリビジネスの展開を目指して栽培管理を行っている。個選農家としてハードルは高いものの、直接お客様に寄り添った喜ばれる作物を作ろうと目指している。

4 就農時の取り組み

(1) 技術の習得

基礎は地域おこし協力隊時代のアグリレスキュー体験を軸に独学し、不明

な点は、地域の農家の方々へのヒアリングや、みかん研究所、県普及指導員等による様々な講座を受講して知識を養いつつ、栽培管理に努めている。

(2) 資金の準備

原則全て自己資金で対応している。また、安定した農業経営を目指すため、各種補助事業や農業次世代人材投資事業（経営開始型）を活用しようと考えている。

(3) 農地・住宅の確保

農地は地域おこし協力隊時代から地域の方の協力を得て探索していたものの、西日本豪雨災害の影響で取得できなかったが、ご縁が繋がって借入することができた。現在は移住の際に見つけた空き家物件に居住中だが、借り入れた農地から住居が 25km 離れているため、今後の費用対効果等を考慮し、転居を検討中。

(4) その他苦労したこと

移住者にとって、居住地域や園地地域での情報や信頼をどう得ていくかが課題となるため、様々な地域活動に関わり、コミュニケーションを深め、信頼関係の構築に努めた。

5 農業経営の特徴

温州みかん類と中晩柑類をバランス良く配分し、収穫など補助が必要な時は雇用するなど、効率的な作業性の実現を目指している。また高品質な果実を生産するため有機質肥料の活用、加工に適した品種の栽培にも力を入れている。

6 これからの夢

就農も移住も希望を持って行う事なので、消費者に寄り添う消費者目線の生産

者を目指し、生産から商品化までのストーリー性を高め、プライドと柔軟性を持つ新たなビジネスとして、笑顔を生み出す事業と生活を実現して行く。

7 成功したキーポイント

自らの意志や指標を強く持ちながらも、関わる方と敬意を持てる柔軟性と楽しさや相互の幸せを見つける姿勢が道を拓く可能性があると感じている。

8 就農を目指す方へのアドバイス

複数の先輩農家の経験を自らの知識に変換し、さらに自らの視点や経験をポリシーとすることで、オリジナリティのある前向きな農業経営を目指すことが出来ると思います。鍛錬と地の利・人の利を最大限活かせる経営環境作りが理想です。

○ 指導機関からのひとこと

渡部さんは、物事を俯瞰的視点で捉え、様々な可能性を想定しながら経営に取り組みされており、行動力に優れた方です。

今後、ますます地域の中核的存在として活躍していただけることを関係機関一同期待しています。

執筆機関

南予地方局産業振興課地域農業育成室
電話番号 0895-28-6117



甘夏の収穫作業